

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 渡邊瑞夫

所属: 福島県立須賀川養護学校

記録日: 平成28年 2月 5日

キーワード: 病弱 光線過敏症 中継 情報収集

【対象生徒の情報】

- 学年 中学1年生
- 障害名 光線過敏症
- 障害と困難の内容
 - ・紫外線を浴びることができない。
 - ・教室外での活動に制限がある。
 - ・体験が著しく少ないため、室外でのことについて知らないことが多い。

【活動目的】

- 当初のねらい
 - ・実体験の機会が限られている生徒が実際に参加できない活動の中継することにより、体験の機会を広げ、より現実に近い形で体験したり、活動に参加したりすることで、これまでできなかった経験を積み、周囲の友達との一体感を味わい、これまでよりも広い世界への興味を引き出していく。
- 実施期間
中学1年(平成27年4月～平成28年2月)
- 実施者
渡邊瑞夫 中学部教員
- 実施者と対象生徒の関係
担任他

【活動内容と対象生徒の変化】

- 対象生徒の事前の状況
 - ・同世代の人と関わる機会が少なく、交流活動を苦手としていた。
 - ・教師と一対一の授業がほとんどのこともあり、「友達」と意識できる人は少なく普段交流がある人としかやりとりが難しい。
 - ・紫外線を怖がり、外での活動について、参加することをあきらめている様子が見受けられていた。
 - ・教室外での活動が難しいことから、経験が少なく、知らないことが多い。

○活動の具体的内容

体験の機会を広げる取り組み

・交通安全教室への中継での参加

5月に交通安全教室の道路を歩く活動にスカイプを用いた中継で参加することができた。交通ルールや道路の歩き方は、知識としては知っていたが、実際に参加したことがないため、曖昧な部分が多かった。

これまで、録画した画像を見ての参加はあったが、リアルタイムで双方向の中継ということで、見たい方向を中継者に伝え、そちらの方向を向いてもらったり、周囲の友達と会話をしながら、交通ルールを確認したりと、友達と一体感を感じながら、道路の歩き方について、より一層の定着を図ることができた。





交通安全に関しては、実際に本生徒が外を歩くことができるのは、夜のみなので、できれば、実際に夜に歩くことや中継に関しても、夜の見え方(本生徒の見え方、つまりサングラスやサンバイザーを通した視界)を再現した、フィルターをかけた映像を見るなどの工夫も必要になってくると思われる。

・校内オリエンテーリングに中継で参加



9月には、宿泊学習の事前学習として、校内オリエンテーリングを行った。本生徒は、長時間の教室外での活動ができないことから、中継での参加をした。

スカイプを用いての中継なので、iPadを持っている先生と会話しながら、見たい方向を見せてもらえるなど、自分の思うように参加することができた。これまでは、天気状況によって参加できた場合でも、通気性のない防護服を着用し、サングラス、サンバイザー着用と身体は、その場においても、見え方がカラーではなく、わかりづらい状況での参加だった。今回は、オリエンテーリングということで、色も関係あり、実際の色で見ることができた上に暑い防護服を着なくていいので、熱中症の心配もなく、快適に活動に参加でき、問題に集中できる状況だった。

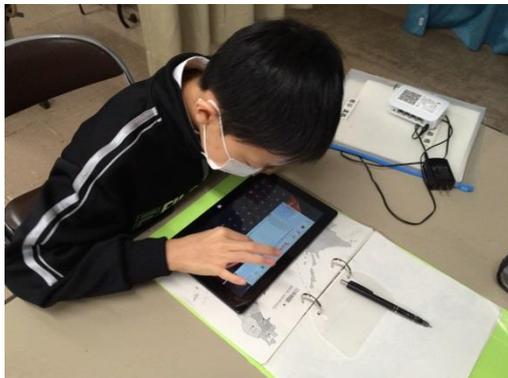


今後の主体的な学びや外界への働きかけにつなげる取り組み

・ライブカメラを利用した天気調べ

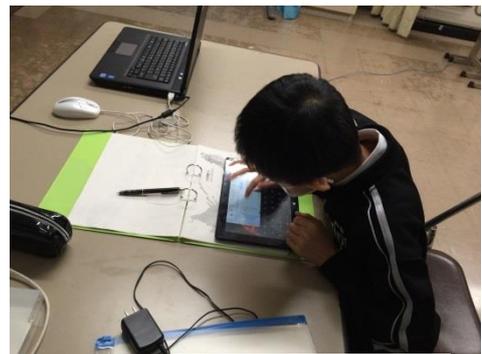
日常の中にインターネットの活用が浸透することをねらい、ライブカメラを使った日本各地の天気調べを行った。

家庭にインターネット環境が無いことから学校内で日常的に使用することでインターネットを使用することへの抵抗感を減らしたり、便利さに気づかせるため



に行った。

各地での天気の違いを実際の映像で見ることで、日本の気候の違いを実感を伴ってみる事ができた。



○対象児の事後の変化

- ・中継によりみんなと一緒に活動することができたことで、一緒に参加する喜びを知ることができた。
- ・中継の回数を重ねることに同学部の生徒に対し、親しみが湧いてきている。
- ・自分が直接外に出なくても外の様子を知る手段があることを知り、もっと外の世界を見てみたいという気持ちが育ってきた。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

- ・本生徒にとって中継とは、自分の代わりに外に出て情報を伝えてくれるもの。
→外界の様子を見ることができ、経験が広がり、様々なことへの興味関心が広がったのではないかな。
- ・他教室の生徒との関わりかたの変化
→一緒に活動することが増え、同じ活動を経験することで親近感が増し、友達も増えだしてきている。
- ・インターネットを使用し、世界が広がってきた。
→インターネットを使用することで常に外界とつながれることに気づき、主体的に使用することが増えてきた。

○エビデンス(具体的数値など)

(9月現在のアンケートから)

・中間アンケートから

アンケートによると、「みんなと一緒に交通ルールを覚えることができてよかった。」や、「一緒に参加できてよかった。」などの反応があった。実際にその場にいた教師によれば、画面に食い入るように見入っていて中継している教師とのやり取りも楽しんでいるようだったそうである。なにより、「一緒に」できたことが、嬉しかったのだと思われる。また、3の問いに対して「2回しか」との回答については、「もっとしたい」という気持ちが伝わってきた。自分がその場に行けなくても、参加できる方法があることが分かり、とても嬉しそうだった。

これまで体験したことがない活動に中継で参加することができ、また、実際に経験できないことでも、リアルタイムに見られる、経験できることに感動と喜びを感じていることがひしひしと伝わってきた。

平成27年度 ICTアンケート

平成27年9月現在

1. 交通安全教室に中継で参加しました。
どのように感じましたか？
みんながちゃんと交通ルールを守っているのを見て、自分も交通ルールを覚えることができたのでよかったです。
2. 宿泊学習の事前学習に中継で参加しました。
どのように感じましたか？
中継でみんなといっしょに参加できたので良かったです。
3. 自分が実際に行けない活動に中継で参加することについて、どう思いますか？
2回しか中継はしてませんが、楽しかったです。
4. これから、中継を使って参加してみたいことは、ありますか？(いくつでもOK)
自分が参加することができたり行事を中継でみたいです。

(アンケートの答え)

1. みんながちゃんと交通ルールを守れているのを見て自分も自分も交通ルールを覚えることができたのでよかったと思いました。
2. 中継でみんなといっしょに参加できたので楽しかったです。
3. 2回しか中継はやってませんが、楽しむことができました。
4. 自分が参加することができない行事を中継でみたいです。

アンケート

1. インターネットを活用して、お天気調べをしました。

感想を書いてください。

全国の天気を調べていろいろなことが分かりました。特に寒い地域が暑い地域より気温が高かったりして、いろいろなことを知る事ができたのでとても勉強になり楽しかったです。

2. インターネットを活用して、もっとしてみたいことがありますか？

ニュースも調べてみたいです。

(1月現在のアンケートから)

(アンケートの答え)

全国の天気を調べていろいろなことが分かりました。特に寒い地域が暑い地域より気温が高かったりして、いろいろなことを知ることができたのでとても勉強になり楽しかったです。

ニュースも調べてみたいです。

3 インターネットを活用して、授業や交流の中継をしました。

① もっと、たくさんやってみたい。

② できれば、あまりやりたくない。

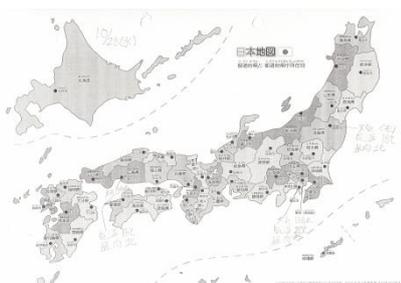
4 「3」で答えた理由を書いてください。

自分の行けない所を中継で様子を見るのがとても楽しかったからです。

自分の行けないところを中継で様子を見ることがとても楽しかったからです。

- ・アンケートの回答から分かるように、教室外の紫外線が高いところでの行事に参加することは、始めからあきらめている様子があったが、インターネットで「中継」という手段を利用することで、自分が行くことができないところの状況を知ることができると実感をもって感じている。
- ・自分の参加していない行事については、周囲の生徒の行動にあまり興味を示さなかったが、実際に中継で行動している様子を見て、自分もしっかりと外界でのルールを覚えなくてはいけないという気持ちが芽生えてきたようだ。
- ・もっと交流や授業に参加したいという気持ちも育ってきた。
- ・紫外線のない部屋の中にも中継やインターネットの活用で外部の情報を自分のものにでき、自分の世界が広がるのがわかり、もっとやりたい、活用したいという気持ちになった。
- ・インターネットでの天気調べから、これまで与えられた課題(調べる事柄)を調べることしかできなかったが、「ニュースも調べてみたいです。」とあるように自分から様々な事柄について調べてみたいという気持ちがでてきており、主体的な広がりが出てきた。

○その他エピソード(画像などを含めて)



気温を調べるなかで、単純に南の方が暖かいと思っていたようで、改めて基礎的知識が積み重なっていないことを感じた。

全ての部分について中継やインターネットでこれまでの積みあがってきていない部分を補うことは難しい。しかし、疑問に感じた部分を手掛かりにインターネットを使用し、自分で「調べる」という方法を身につけさせていくことで本生徒の世界が広がっていくのではないかと考える。本生徒は、外に出ることが今後も難しい。その中でインターネットは、本生徒にとって大きな助けになるだけでなく、必要不可欠なものになっていくことが想定される。そのため、今後は、本生徒が必要に応じ、日常的にインターネットを使用することができる環境整備を進めていきたい。

